持続的成長に向けて

CSRに関する取り組み

当社は1919年の創業以来、お客様の健康を願う創始者の想いを大切にしてきました。このたび、グループの理念に共感する多彩な従業員が活躍する企業として、次の世代も社会とともに成長するため、「CSRの基本的な考え方」と「CSRの重点課題」を設定しました。

CSRの基本的な考え方

私たちはグループ理念と規範を遵守し
持続可能な社会の実現に貢献するとともに
グループの持続的な成長の基盤として
CSR活動を推進します

CSRの重点課題

持続可能な社会と企業の実現に向けて、社会課題の解決に取り組みます。キユーピーグループの強みやユニークさ、私たちの問題意識をもとに、SDGsを参考にして取り組むべき社会課題を抽出し、それぞれ社会への影響と企業にとっての重要性を評価することで、「CSRの重点課題」を設定しました。

重点課題	私たちの想い	SDGsとの関連づけ
健康寿命延伸への貢献	高齢になっても元気で過ごせる社会に貢献します	2 飢餓をゼロに / 3 すべての人に健康と福祉を
子どもの心と体の健康支援	食を通じて子どもの心と体の健康を支え、未来の活躍を応援します	1 貧困をなくそう / 4 質の高い教育をみんなに
資源の有効活用と持続可能な調達	自然の恵みに感謝し、地球の持続可能性に配慮します	2 飢餓をゼロに / 12 つくる責任つかう責任 / 15 陸の豊かさも守ろう
CO_2排出削減（気候変動への対応）	地球温暖化防止の実現に向けCO_2排出削減に取り組みます	13 気候変動に具体的な対策を
ダイバーシティの推進	理念に共感するグループの一人ひとりが、互いを受容し、学びあい、持続可能な社会とグループの成長をめざします	5 ジェンダー平等を実現しよう / 8 働きがいも経済成長も

詳細は、「キユーピー 社会・環境報告書 2018」をご覧ください 〉〉 http://www.kewpie.co.jp/csr/

持続可能な開発目標（SDGs）

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）は、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で決められた国際社会共通の目標です。持続可能な社会の実現に向けて2030年までに達成すべき17の目標で構成されています。SDGsは国や政府だけが意識すべき目標ではなく、途上国も先進国も含めた世界中のあらゆる組織と個人一人ひとりが取り組んでいく目標です。

「健康寿命延伸への貢献」の取り組み

日本人の平均寿命の長さは世界でもトップクラスですが、要介護期間も長く、医療・介護費の増加などが社会的な問題となっています。そのような中、元気でたのしく暮らしていくためには健康寿命を延ばしていくことが望まれており、栄養バランスのよい食生活を送ることが大切になります。健康長寿は食生活と関わりが強く、中年期には高血圧などの生活習慣病予防として、ビタミン、カリウムなどのミネラル、食物繊維の供給源である野菜の摂取が重要です。また、高齢期には低栄養により生活機能が低下しやすく、たんぱく質やエネルギーをしっかり摂る必要があり、体内で効率よく利用される良質なたんぱく源である卵を食べることは効果的です。私たちは、グループの事業と関わりの強い「サラダ（野菜）」と「卵」を中心とした様々な食の提案を通じて、健康寿命の延伸に貢献していきます。

■ 介護に関する勉強会や交流会を開催

2017年度は、全国各地で介護に関する勉強会や交流会を300回以上開催しました。当社従業員が講師を務め、介護の悩みなどの情報交換を行うとともに、食事づくりの負担を減らしつつ栄養バランスのよい食事となる介護食（やさしい献立）を紹介しています。

■ 野菜のメニューを食卓の主役に

バランスよく栄養が摂れる「パワーサラダ」の提案に取り組んでいます。パワーサラダは、野菜、フルーツ、たんぱく質、トッピングを組み合わせた新しいサラダのスタイルです。野菜の摂取向上につながるよう、様々なメニュー提案を通じて野菜のたのしみ方を広げ、健康的な食生活をサポートしていきます。

「子どもの心と体の健康支援」への取り組み

近年、ライフスタイルや食生活の多様化が進む一方で、核家族化や共働き、ひとり親家庭の増加など、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。これらの変化は、子どもの様々な知識や体験の不足、人との関係性の希薄さ、子どもの貧困の広がりなどの社会的課題にもつながっています。

食育基本法では、食育を「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」としています。人が集う食卓は、食事を通じて健康を支えるとともに、人と人が交流し、社会性や豊かな心を育む重要な場所となります。当社グループは、子どもの心と体の健康を願い、食に関わる知識と体験の場の提供や子育ての食にまつわる不安解消、子どもの居場所づくりの支援などを行っていきます。子どもの「生きる力」、「考える力」を育て、未来の活躍を応援していきます。

■ 全国でマヨネーズ教室を開催

小学校への出前授業「マヨネーズ教室」を2002年からスタートし、2017年度は全国328校で開催しました。マヨスター（社内資格）を持つ従業員が講師となり、マヨネーズの手づくり体験を通じて、食のたのしさと大切さを伝えています。

■ 食を通じて課題解決に取り組む団体を支援

財団授与式の様子

当社は、「食を通じて社会に貢献する」という想いを共有しうる団体の活動を支援することで、一企業だけでは成し得ない社会貢献につなげていきたいという想いから、2017年4月に「キユーピーみらいたまご財団」を設立しました。初年度となる2017年度は20団体への助成を行いました。

持続的成長に向けて

CSRに関する取り組み

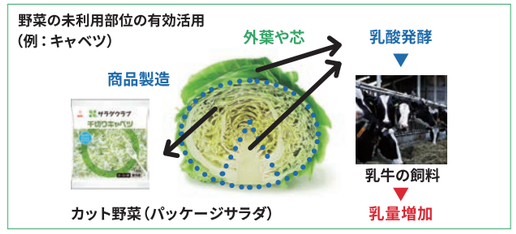
「資源の有効活用と持続可能な調達」への取り組み

食品メーカーとしてお客様にご安心いただくには、商品の安全性に加えて、原料・資材の調達から生産・販売、廃棄物のリサイクルまで、商品のライフサイクル全体に責任ある取り組みが必要と考えています。

2018年1月「キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針」を定め、お取引先と協力して、安全性に加え、環境や人権に配慮した調達を進めていくことを表明しました。また、原料を最大限活用するため、マヨネーズなどに用いる卵の殻は100%リサイクルを行っているほか、サラダ・惣菜事業では、商品には使用できない野菜の未利用部位を有効活用するなど、創意工夫を続け、サプライチェーン全体の持続可能性に配慮しています。

▼「キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針」の詳細はこちらをご覧ください
https://www.kewpie.co.jp/company/activity/procurement/policy.html

■ キャベツ・レタスの外葉や芯を乳牛の飼料に



当社グループが販売するカット野菜の製造過程では、キャベツ・レタスなどの外葉や芯などの未利用部位が発生しますが、資源として無駄にせず、より有効に使う工夫を重ねています。2017年は、未利用部位を乳酸発酵させ、乳牛の飼料に配合する方法を開発しました。一般的な飼料に比べて乳量が増える※ことから、より多くの酪農家の利用拡大を進めます。

※ 日本畜産学会 第124回大会（2018年3月） 東京農工大学・キユーピー

■ 次世代を担う若者とともに耕作放棄地を畑に変える

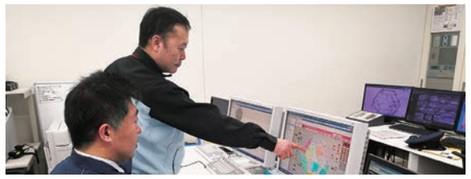
茨城県つくば市の畑の様子

国内の農業は、天候不順、後継者不足、耕作放棄地の拡大などの課題を抱えています。当社は2017年より有限会社ワールドファームと提携して日本各地の耕作放棄地を畑に変えて野菜を栽培する取り組みを進めています。耕作放棄地を畑に変えることで、安定した野菜の調達につながるだけでなく、農業に挑戦する若者たちも増えています。

「CO_2排出削減（気候変動への対応）」への取り組み

気候変動に関するパリ協定が2015年に採択されたことを受け、地球温暖化防止に向けた企業の事業活動全体でのCO_2排出削減が期待されています。当社グループでは製造工程における効率改善、省エネ設備の導入、重油から天然ガスへの燃料転換などCO_2排出削減に取り組んできました。さらに、製造工程の効率化だけでなく、前工程となる原料資材メーカー、後工程となる物流会社との連携の最適化により、事業活動全体の効率化も進めることでCO_2排出削減を行っています。今後は、原料調達から商品の使用、廃棄まで、サプライチェーン全体を通じたCO_2排出削減に取り組んでいきます。

■ 仙川キユーポートでの省エネルギーの推進



2013年に開設したオフィス仙川キユーポートでは、吹き抜けを活用した自然換気システムやコジェネレーションシステム、太陽光発電、LED照明などを導入しています。これらの設備の運用改善を行い、最大限に性能を引き出すことで、年間約250トンのCO_2排出削減を実現しています。

■ 環境に配慮したモデル工場

2016年10月に操業を開始したキユーピー 神戸工場は、従来のマヨネーズを製造している工場と比べてエネルギー消費量50%削減をめざし、省エネ・創エネを実現する多様な環境配慮技術を導入しています。持続可能な社会を次世代につなぐ想いを形にしたモデル工場として、技術とノウハウを当社グループにおいて水平展開していきます。

「ダイバーシティの推進」への取り組み

企業を取り巻く環境や、働く人を取り巻く環境がこれまでにない変化を見せています。そのような中、当社グループは、社是「楽業偕悦」をはじめとするグループの理念や、お互いの話に耳を傾け、感謝の気持ちを伝える企業文化を大切に、いきいきと働くことができる環境づくりを進めてきました。誠実で多彩な人材が、互いを受容し、学びあうことで、一人ひとりの成長と、新たな価値を生み出すイノベーションにつなげ、より豊かな社会の実現とグループの成長をめざします。

■ 皆が志を同じくし、力を合わせる

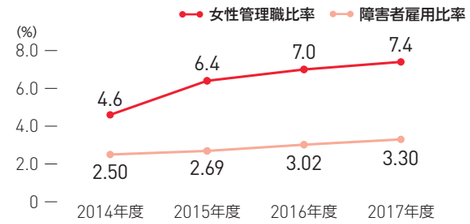
一緒に働いている仲間の声に耳を傾け、会話していくことを大切にしています。本社や支店、工場においてグループ合同研修で理念や歴史を学ぶとともに、交流会では役員との直接的な対話を行っています。従業員一人ひとりが理念に共感し、やりがいをもって働き続けられる機会につながっています。

■ 誰もが働き続けられる職場づくりをめざして

当社グループは、障害のある方が働く喜びや生きがいを実感できる職場環境をつくることが社会的な使命であると考え、全国各地の支援機関や、特別支援学校と関係を築きながら積極的な障害者雇用を進め、2017年度の障害者雇用率は3.3%となっています。特例子会社のキユーピーあいでは、電子文書化、販促物作成・発送、館内物流、清掃など多岐にわたる業務を展開し、障害者が得意分野で力を発揮しています。

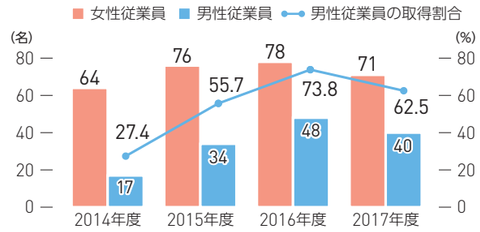
主な指標

■ 女性管理職比率（対象：キユーピー株式会社）
■ 障害者雇用比率の推移（対象：国内キユーピーグループ※）



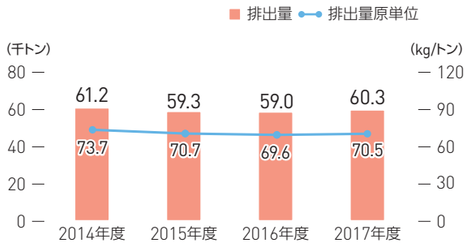
※12月1日現在の在籍者（物流システム事業除く）

■ 育児休暇取得状況（対象：キユーピー株式会社）



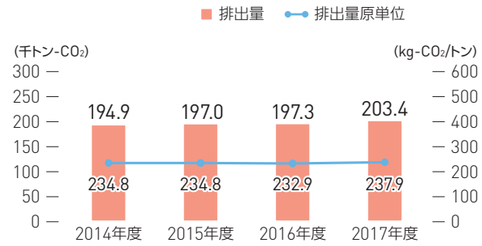
※取得割合：当年度に子どもが生まれた従業員の中で育児休業を取得した従業員の割合

■ 廃棄物排出量（対象：キユーピーグループ国内生産工場）



※排出量原単位：生産数量1トン当たりの排出量

■ CO_2排出量（対象：キユーピーグループ国内生産工場）



※排出量原単位：生産数量1トン当たりの排出量